

【シンポジウム】

医師と看護師の相互関係のあり方

(日本看護管理学会との共同企画)

【座長】

笥敦夫 先生 (日本看護管理学会理事・工学院大学建築学部建築デザイン学
科教授)

勝山貴美子 先生 (日本医療・病院管理学会理事・横浜市立大学看護管理学
分野教授)

【シンポジスト (敬称略)】

地域医療における医師と看護師の新しい役割を考える

川添高志 先生 (ケアプロ株式会社代表)

在宅医療推進の中での医師と看護師、家族との相互関係のあり方 (仮)

田城孝雄 先生 (放送大学、公衆衛生学・地域医療学)

賢い患者になるための医師と看護師とのかかわり方 (仮)

山口育子 先生 (認定 NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML 理
事長)

〔企画の趣旨〕

住み慣れた地域で最後まで暮らせるよう、医療や介護などの地域のサービスを切れ目なく提供できるようにする「地域包括ケアシステム」には、保健・医療・福祉の緊密な連携を構築しなければなりません。8月に開催される日本看護管理学会学術集会では、その中心的な役割を担う看護の本質を見つめ直し、それを実践するための“管理”をテーマに据えました。コロナ禍と高齢社会に向き合う地域共生を考えるためには、予防医療、在宅医療の強化し、地域で暮らし療養を継続している人々を中心に据えた、医師と看護師の相互関係のあり方を再度考える必要があると思います。この企画では、地域で暮らす高齢者を始めとして、在宅において医療やケアの継続が必要な人々を中心に据えた、医師と看護師の相互関係の今後のあり方を考えたいと思います。